

目的 在宅老人介護者のストレスは、ストレスラーである老人の心身の症状、問題解決の手段である資源の布置、介護意識、コーピングの様態などの要因に影響されることが指摘されている。本研究は在宅寝たきり老人の介護者のストレスを軽減させると考えられる要因のうち「対処資源」に着目して、ストレスラーが介護者にもたらすストレス反応を弱めたり、消失させる作用であるストレス緩衝効果を探ることを目的とする。

方法 長野県長野市の寝たきり老人台帳に登録されている全ての老人の主たる介護者(873名)を対象とした調査から得られたデータ(有効回答率は81.6%、有効票712名)を、分散分析などの手法を用いて分析する。分析概念のうち、ストレスラーは老人の身体的障害の程度、痴呆の程度、介護量の変化によって評価した。対処資源は個人資源、家族資源、家族外資源に区分し、さらに家族資源は人的レベルと物的・経済的レベルに二分した。

結果 ストレスラー、資源、ストレス反応の3変数の関係を捉えるために、3種類のストレスラーと16種類の資源の全ての組み合わせ(48組)に関して、個別に分散分析を行い、主効果と2次の交互作用効果を分析し、緩衝効果を3タイプに分けた。ストレス反応に対する3種類のストレスラーの主効果は、全ての分析において有意である。いずれも低ストレスラー群は高ストレスラー群よりもストレス反応の平均得点が低い。16の対処資源のうち3つのストレスラーのいずれにも緩衝効果を示さなかったのは、人的レベルの家族資源である副介護者の有無と介護分担である。48組の分析のうち29組にストレス緩衝効果が認められ、資源が良好に機能する条件づくりの重要性が示された。